

千葉市制100周年記念 第3回千葉氏首長フォーラム

開催日：令和3年8月21日（土）

会 場：三井ガーデンホテル千葉

【出席者紹介】

○司会 それでは、これより第3回千葉氏サミット「首長フォーラム」を始めさせていただきます。

本日の司会の「はやし」と申します。どうぞ、皆様よろしくお願いいたします。

このフォーラムにおきましては、千葉一族を指す「千葉氏」と都市名である「千葉市」との混同を避けるために、千葉一族を指す千葉氏を「ちばうじ」と言い換える場合がございますので御了承をお願いいたします。

それでは、開会に当たり、各都市の御出席者を御紹介させていただきます。お名前を呼ばれましたら、御参加の皆様、一言御挨拶をお願いいたします。

岩手県一関市長、勝部修様。

○一関市（勝部） 一関市長の勝部でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

○司会 どうぞ、よろしくお願いいたします。宮城県涌谷町長、遠藤稔雄様。

○涌谷町（遠藤） 涌谷町長の遠藤でございます。初めての参加でございますので、よろしくお願い申し上げます。

○司会 よろしくをお願いいたします。福島県相馬市教育委員会生涯学習部長、赤石澤珍夫様。

○相馬市（赤石澤） 相馬市の赤石澤と申します。よろしくお願い致します。

○司会 よろしくをお願いいたします。福島県南相馬市観光交流課長、平田良親様。

○南相馬市（平田） 南相馬市の平田と申します。どうぞ、よろしくお願い致します。

○司会 よろしくをお願いいたします。千葉県千葉市長、神谷俊一様。

○千葉市（神谷） 千葉市の神谷です。今日は、お集まりいただきまして、ありがとうございました。どうぞ、よろしくお願いいたします。

○司会 お願いいたします。千葉県佐倉市長、西田三十五様。

○佐倉市（西田） 千葉県佐倉市長の西田三十五でございます。どうぞよろしくお願い

いたします。

○司会 よろしく願いいたします。千葉県酒々井町長、小坂泰久様。

○酒々井町（小坂） 酒々井町長の小坂でございます。皆さん、よろしく願いいたします。

○司会 よろしく願いいたします。千葉県多古町長、所一重様。

○多古町（所） 多古町の町長の所一重でございます。皆さん、どうぞよろしく願いいたします。

○司会 よろしく願いいたします。千葉県東庄町長、岩田利雄様。

○東庄町（岩田） 皆さん、こんにちは。御紹介いただきました東庄町町長の岩田利雄です。よろしく願いをいたします。

○司会 よろしく願いいたします。岐阜県郡上市長、日置敏明様。

○郡上市（日置） 岐阜県郡上市長の日置でございます。今日は、よろしく願いをいたします。

○司会 どうぞよろしく願いいたします。佐賀県小城市長、江里口秀次様。

○小城市（江里口） 小城市長の江里口秀次です。皆さんとも、久しぶりの方もいらっしゃるかと思います。今日は、よろしくお願いします。

○司会 よろしく願いいたします。なお、本日は御都合により、成田市様は欠席となっております。

【開催市挨拶】

○司会 それでは、開催市であります千葉市の神谷市長より、開会の御挨拶をいただきます。神谷市長、どうぞよろしく願いいたします。

○千葉市（神谷） 千葉市の神谷です。本日は、お忙しい中、お集まりをいただきまして、まことにありがとうございました。

今年、千葉市は市制100周年を迎えておりまして、この大きな節目の年に、第3回千葉氏サミット、千葉市内では「千葉氏（ちばうじ）サミット」というふうに呼んだほうが通りがいいんですけれども、開催できることに感謝を申し上げます。

これまでの歩みを振り返ってみますと、2016年、平成28年の8月に開催いたしました第1回の千葉氏サミットで、初めて千葉氏にゆかりのある都市の皆様一堂に会していただいて、首長フォーラムを開催いたしました。ここでの意見交換を踏まえまして、ゆ

かりの都市が結束して、千葉氏の全国的な知名度の向上や地域の活性化に向けた経済や観光、防災など、様々な分野での連携に取り組むことといたしました共同宣言を行ったところでございます。

私たち千葉のまちの礎を築いた千葉氏中興の祖であります千葉常胤の生誕900年に合わせまして、平成30年、2018年の5月には、第2回千葉氏サミットを開催いたしまして、再び皆様方に集まっていただき、騎馬武者行列ですとか、記念講演、歴史文化フォーラムを行わせていただきました。千葉氏に理解を深めて、その交流を強化してきたわけでございます。

昨年から、残念なことですけれども、新型コロナウイルス感染症の影響がございまして、集客を伴う様々な行事が中止・規模の縮小を強いられております。こうした中で、各都市の関係者の皆様方におかれましては、伝統のある祭礼ですとか、地域の行事が途切れることのないように、懸命の努力をされているというふうに思います。そうした取り組みに対しまして心より敬意を改めて表す次第です。

残念ながら、御都合が合わずに成田市は御欠席となりましたけれども、千葉一族ゆかりの都市が集まって意見を取り交わす、こうした機会がありますことは、大変意義深いものだというふうに思っております。千葉一族のゆかりを大切にいたしまして、今後各都市の連携強化を図っていききたいというふうに思っています。

今日は、皆様方の都市における千葉氏関連の取り組みの御紹介ですとか、都市間連携に係る御提案をいただいて、5年後に迎えます千葉開府900年に向けた機運の醸成ですとか、様々な取り組みの実現に向けて協議を深めていききたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日は、本当にありがとうございます。

○司会 神谷市長、ありがとうございました。

この千葉氏サミットは、平成28年に開催いたしました第1回千葉氏サミットにおける千葉氏サミット共同宣言に基づき、千葉一族の全国的知名度向上を目指すとともに、千葉一族によって成立・発展を遂げた都市同士が連携し、千葉一族という共通の資源を通じて友好関係を深め、様々な分野で連携を促進することを目的としております。

本日は、平成30年5月に開催されました第2回千葉氏サミット以来の開催となります。これまでの千葉氏に関する取り組みと今後の連携などを議題とさせていただきます。

お手元の「資料1」に、各都市から御回答いただきました取り組みなどを記載してお

りますが、いくつかピックアップさせていただき、各都市の首長様に御紹介いただきたいと存じます。

【千葉氏に関連する取り組み】

○司会 最初の議題といたしまして、千葉氏に関する取り組みについて、各都市に状況をお伺いさせていただきます。

まずは、涌谷町の取り組みについてお伺いしたいと存じます。遠藤町長、どうぞよろしくお願いいたします。

○涌谷町（遠藤） 宮城県涌谷町長の遠藤稯雄でございます。改めまして、どうぞよろしくお願い申し上げます。私は令和元年に町長に就任いたしましたので、今回が初めての千葉氏サミットの参加となります。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

私のほうからは、涌谷町の今後の取り組みといたしまして、千葉氏の流れをくむ涌谷伊達家のルーツを伝えるパンフレットやホームページの活用について紹介を申し上げます。

最初に、千葉氏と涌谷町の関係について紹介させていただきます。

涌谷伊達家の遠祖は、千葉常胤の3男である武石胤盛でございます。武石胤盛は、父常胤とともに1189年に奥州合戦に従軍して功績をあげ、源頼朝から現在の福島県北部から宮城県南部にわたる宇多・伊具・亘理の3郡を拝領いたしました。その後、宮城県の亘理郡へ移住し、亘理氏と名乗るようになったと伝わっております。

その後、1591年に伊達政宗の命により、亘理元宗・重宗親子が亘理から涌谷へ移転し、そこから涌谷伊達家のまちづくりが始まりました。

涌谷伊達家につきましては、特に1671に起こしましたお家騒動である、いわゆる伊達騒動が有名でございます。

伊達騒動につきましては、2歳で家督を相続した4代目藩主の綱村の後見として実権を握った伊達兵部の独断専横とそれに異を唱えた反対派による江戸幕府を巻き込んだ騒動でございます。

反対派の中心は、涌谷伊達家の伊達安芸宗重でございますが、騒動の最中、伊達兵部側の家老である原田甲斐の凶刃に倒れましたが、最終的には、幕府から涌谷伊達家側の主張が認められ、反対派の勝利として落着いたしました。

その騒動は、芝居や時代小説の好材料となり、特に、山本周五郎の小説「樅ノ木は残

った」が有名でありまして、今まで複数回にわたりテレビドラマの題材に使用されております。この伊達騒動につきましては、地域住民を初め、当町を訪れていただく観光客の皆様にも広く認識いただいているところでございますが、先ほど申し上げました涌谷伊達家のルーツでございます千葉氏と涌谷町の関係につきましては、広く認識されていると言いがたいところでございます。

千葉氏サミット共同宣言にあります「千葉氏の全国的知名度の向上」を図るためには、外に対する情報発信も大切でございますが、まずは、町内の地域住民の皆様に対する知名度向上が重要であると認識しているところでございます。

つきましては、このような千葉氏と涌谷町の歴史につきまして、地域住民の皆様を初め、観光客の皆様にご伝えることができますように、広報誌やSNS、または観光パンフレットなどを活用し、認知度を向上してまいりたいと考えております。

私自身、このつき合いをさらに親睦を深めまして、パンフレットだけでなく、私自身からも様々な形で、千葉氏と涌谷町とのつながりを町民の皆様につなげてまいりたいと思っているところでございます。よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○司会 ありがとうございます。まずは地域からということで、観光パンフレットなどの利用は多くの方々に行きますので有効なのではないでしょうか。どうも、ありがとうございました。

続きまして、相馬市・南相馬市につきましては、千葉氏に関連する祭礼といたしまして「相馬野馬追」を開催されているかと存じますが、コロナ禍における開催の状況なども含め、まずは、相馬市生涯学習部長の赤石澤様より御紹介いただけますでしょうか。

○相馬市（赤石澤） それでは、私から相馬野馬追について、簡単に紹介させていただきます。

まず、その始まりですが、平安時代に平将門は、現在の松戸市・流山市付近で配下の武将を集めて馬を捕らえ神前に奉納したことが由来とされています。これは、馬を敵に見立てて行った軍事訓練でもあったと言われています。

そして、鎌倉時代末期に、相馬家6代目重胤が陸奥行方郡、現在の南相馬市なんですけれども、に下向した後も、故事に倣い原野に馬を放ち、馬追を続けてきたと推察されています。

その後、江戸時代初めに現在の相馬市中村に居城を移しますが、明治に至るまで相馬

家の年中行事として野馬追を行ってまいりました。明治になると、相馬家の行事としての野馬追はできなくなりましたが、妙見を祭る太田神社、小高神社、中村神社の3社合同の祭礼として、旧相馬・中村藩領の人々により幾多の困難を乗り越えながら、今日まで受け継がれてきたところでもあります。また、昭和53年には、国の重要無形民族文化財に指定されたところです。

ここからは、今年の相馬野馬追についてお話しします。

今年も昨年と同様、新型コロナウイルス感染症の影響により、雲雀ヶ原で行われる甲冑競馬、神旗争奪戦など、主要行事が中止となり、神事のみ行うこととなりました。

ここで、相馬市資料をごらんいただきたいと思います。

相馬市では、野馬追初日の7月24日に、総大将を擁する宇多郷の出陣式・お行列が行われました。1ページ目、上の写真は、中村神社境内において相馬行胤総大将が出陣の訓示をしているところで、下の写真は、中村城大手門から出陣したところでもあります。このときは、騎馬武者40騎が総大将に供奉し、お供の者も合わせ総勢約70人の行列となりました。

次のページをごらんいただきたいと思います。

今年は、お繰出し行列の後に、続けて神社に戻るお上がり行列を行いました。上の写真は、相馬市内を総大将が行軍し、下の写真、行列の先頭軍者が立谷秀清相馬市長に無事の凱旋を報告しているところです。

最後のページをごらんいただきたいと思います。

野馬追を見にいらっしゃる際は、できれば相馬の旅館や民宿にお泊まりいただき、おいしい海の幸を堪能し、海水浴やサイクリング、「みちのく潮風トレイル」を歩いたり、その土地ならではの体験を楽しんでいただければと思います。また、相馬市には、6面ある大規模サッカー場など、各種スポーツ施設が充実しており、また、浜風により夏でも過ごしやすく、冬はほとんど雪が降らないなど、スポーツ合宿や各種旅行先として最適なところでもあります。ぜひ、相馬にいらしていただければと思います。

以上で、私からの相馬野馬追の紹介を終わります。

○司会 ありがとうございます。多くの方々の御苦勞と協力があって、野馬追も受け継がれてきたということでございますね。再開できる日を心待ちにしたいと思います。赤石澤様、ありがとうございます。

続きまして、南相馬市で行われている祭礼については、どのような状況でしょうか。

観光交流課長の平田様、どうぞよろしくお願いいたします。

○南相馬市（平田） 南相馬市観光交流課の平田と申します。

令和3年度の相馬野馬追につきましては、本来であれば、一部簡略化とか、あるいはメイン会場を無観客とするということで、適切なコロナ対策を講じながら各種行事を執行することとしておりました。

本来であれば、今年は352騎の騎馬武者が市内を行列し、メイン会場となる雲雀ヶ原祭場地で甲冑を着たまま競馬を行う甲冑競馬、それから花火で打ち上げられて舞い降りてくる旗を奪い合う神旗争奪戦などを行う予定でした、その準備を進めてきていたのですが、南相馬市では、7月に入ってから新型コロナの感染者が増加しまして、そのことから、南相馬市内で行う相馬野馬追の行事、初日の総大将お迎えの儀、あるいは宵乗り競馬、それから2日目には、行列、それから甲冑競馬・神旗争奪戦、3日目に野馬懸と、裸馬を素手で捕まえる行事とかあるんですけれども、そういったものは全て、南相馬市で行う行事でしたが、それにつきましては、全て昨年度と同様に神事のみということで、大幅に縮小した形での執行ということになってしまいました。

しかしながら、今年は相馬野馬追で行われた3日間の全ての行事、縮小の行事でしたけれども、その行事を全てライブ中継をしまして、インターネットで配信しました。先ほど相馬市さんのほうでお話のありました相馬市での総大将の出陣式やお行列なども収録しております。現在もY o u T u b e にアップされておりますので、機会があれば、ぜひごらんいただきたいと思います。

いずれにしても、南相馬市においては、2年連続で本格的な相馬野馬追が実施できなかったということになりました。来年こそは、例年どおりといいますか、例年以上に相馬野馬追を盛大に開催したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○司会 ありがとうございます。縮小・ライブ配信・無観客と、どうにか続けていきたいという御努力・御苦勞が伝わってまいりました。どうもありがとうございました。

続きまして、佐倉市の取り組みについてお伺いしたいと存じます。西田市長、御発言いただけますでしょうか。

○佐倉市（西田） まずは、佐賀県の小城市長さんに、先週の大雨で被害がありまして、まずはお見舞い申し上げます。私も市長になりまして最初の会合でありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、佐倉市からの御紹介をさせていただきます。

千葉氏の居城であった本佐倉城跡は、一部が我が佐倉市に位置しており、平成10年に国の史跡指定がなされ、これまでも酒々井町と共同して史跡の整備や効果的な活用について取り組んでまいりました。

まず、国の史跡指定20周年記念事業として行った講演会では、様々な分野の専門家の皆さんに多角的な視点で、本佐倉城と千葉氏の戦国期の姿について講演していただきました。多くの歴史ファンの皆さんから好評をいただきました。

この取り組みを記録集として刊行し、また、本佐倉城と佐倉城をめぐる散策マップを配布することで、千葉氏の築城に始まる戦国時代から江戸時代までの城下町佐倉の魅力を情報発信してきました。

次に、佐倉市では、学校や社会教育の場で、郷土の歴史や文化に加え、すぐれた業績を残した先覚者について学び、それらを将来に生かすための教育として「佐倉学」という取り組みを進めております。

学校教育の分野では、佐倉学の副読本として制作した「ふるさと佐倉の歴史」の中で、本佐倉城の築城や千葉氏の歴史について、全小中学校の児童生徒が学んでおります。社会教育の分野では、市民の生涯学習の一環として、千葉氏の一族であった臼井氏の居城、臼井城や周辺の社寺など、中世に起源を持つ文化財を題材とした講座を開催しております。

続いて、今後の佐倉市の取り組みについて御紹介申し上げます。

市の文化課では、臼井城の支城である「臼井田宿内砦跡」を重要な遺跡と位置づけ、市文化財の指定を目指しているところでございます。

また、令和5年3月に図書館を含む複合施設として開館を予定しております「夢咲くら館」に市史編さんの機能を持たせることにしております。この施設は、図書館機能だけではなく、子育てに関する相談や地域の歴史を学習できる佐倉学を学ぶフロアを設け、近世の城下町佐倉だけではなく、千葉氏や本佐倉城に関する歴史についても学べるようにしたいと考えております。このほか、市民ボランティア団体により、定期的に本佐倉城跡の見学会が開催されております。

今後も、ハード面とソフト面を併せ、市民と協働して普及活動やPRを行ってまいります。

佐倉市からは、以上でございます。御清聴ありがとうございました。

○司会 ありがとうございます。佐倉学を学ぶフロアと地元を愛する気持ちを伝えていきたいという努力と気持ちが伝わってまいりました。ありがとうございます。

続きまして、多古町の取り組みについてはいかがでしょうか。所町長、よろしくお願いいたします。

○多古町（所） 改めまして、多古町の所一重でございます。小城市の江里口市長さん、本当に大変な大雨で大変でありました。お見舞いを申し上げます。

千葉氏に関連する取り組みについて、多古町は、ガイドブックにおける千葉氏の歴史紹介について申し上げます。

昨年春に発行しました町のガイドブック「多古町ぶらり散歩」は、手軽に歴史を学べ、新しい多古の発見や町内散策、町外からのお客様の案内などにも利用できるハンディーサイズの観光ガイドとして、2,000部作成いたしました。

特徴としては、定番の神社・仏閣ばかりではなく、史跡や遺跡、鉄道路線の跡や自然・景観、ロケ地など、町内の見どころをテーマ別に紹介しております。

千葉氏の歴史紹介については、前回の千葉氏サミットの開催を受けまして、格段に多くのページを割いております。ガイドブック全体で128カ所の観光スポットを掲載していますが、千葉氏に関連するところは21カ所に上ります。

その中でも、代表的なものとして少し触れさせていただきますと、多古町は、室町時代中期に起こった千葉氏一族間での内乱により、当時、千葉宗家の当主であった胤直滅亡の地として知られております。

胤直は、千葉城から一族で多古城と志摩城に逃れてきますが、一説には、さらに多古町の奥地にある東禅寺まで逃れ、最後は敵に囲まれ、そこで亡くなったと伝えられております。現在、東禅寺の墓地には、胤直ほか一族の墓と伝わる五輪塔が残されております。

もう一人、鎌倉時代の終わりごろから南北朝時代にかけて、室町幕府の成立に大きく貢献した千葉胤貞も、多古町に数々の足跡を残しています。

胤貞の館であったと伝わる久保城を初め、周辺に残る中城や並木城などの山城跡6カ所、胤貞の名が刻まれた石碑が残る東福寺など、5カ所の寺院・神社についても、ガイドブックの中で紹介しております。

ガイドブック作成のほかにも、千葉氏の認知度向上に力を入れており、第1回千葉氏サミットの開催を契機に「千田荘と千葉氏を探る」をテーマとした多古町歴史講座をス

タートし、今年で5年目を迎えました。年5回のペースで行っていますが、毎回100人を超える方々が参加し、千葉氏と多古町の歴史について熱心に学習されています。

また、千葉氏に関連する名所の観光案内板も、千葉氏サミットの開催以来、設置しています。

そして今、ちまたで人気上昇中の御城印ですが、多古城を初め12城が発行されており、この御城印数は、現在、全国第1位となっています。今後も、引き続き、千葉氏の知名度向上に向けた取り組みを続けてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○司会 ありがとうございます。このようなガイドブックがございますと、名所をめぐりながら歴史をひもとく、とてもいい散歩と言っているのでしょうか。いい旅になりそうですね。ありがとうございました。

それでは、次に、郡上市の取り組みをお伺いいたします。郡上市におかれましては、今年は、「郡上東氏800年及び古今伝授550年祭」が開催されると伺っております。

こちらの行事につきまして、日置市長に御発言いただきたいと存じます。どうぞ、よろしく願いいたします。

○郡上市（日置） 郡上市長の日置でございます。ただいま紹介していただきましたように、今年は、千葉氏との関係では、郡上市は、郡上東氏800年、それから古今伝授550年という、非常に大切な歴史の節目を迎えております。

郡上市は、千葉常胤の6男・胤頼の孫に当たります。胤行という人が承久の乱、これが1221年ですけれども、承久3年、戦の功績をあげたということで、郡上山田庄という領地を預けられたといえますか、そういうことで御縁ができたということです。したがって1221年から今年が2021年ですので、今の東庄に本拠を置いた東氏の一部がこの郡上市へ来て「郡上東氏」となって800年という年になります。

東氏は、それ以来、永禄2年ですかね、桶狭間の戦いの前の年ぐらいまで、約340年にわたって郡上市を治めたということで非常に大きな足跡を残しております。そして、その郡上東氏の中で、9代目に東常縁という人がいます。

東氏は代々和歌の道にすぐれた一族と言われておりますけれども、特にその9代の常縁という人は、和歌の道に学識が深く、いわゆる最初の勅撰和歌集である古今和歌集の奥義を連歌師の宗祇に伝えたと、これが1471年、文明3年ということで、ちょうど1471年から勘定して550年という節目になる。ということでございます。

そういうことで、郡上市は、今年を本格的な出発点として、様々な行事を展開中でございます。その中で、3つほど申し上げたいと思います。

まず、郡上市がでは、この東氏の歴史、あるいは東氏を通して郡上の中世の歴史を学ぼうということで、様々な講座や講演会を開催中でございます。

それから、800年の昔に、今日も御出席いただいておりますが、東庄町を初め、昔の東庄と御縁ができたということで、私たちの郡上東氏の先祖がこちらのほうへ来た東庄のことをよく知ろう、あるいは、そういうことで、いろんなことを紹介しようということで、大変、東庄町を初め皆様のお世話になりまして、今年は下総と郡上の800年の縁ということで、後で御紹介があるかもしれませんが、東庄町に伝わる大切な妙見大菩薩大立像、あるいは、現在は香取市になっておりますが、小見川町の獅子頭、そうしたものをお借りして郡上の皆さんに見ていただくことを考えております。

これは、この獅子頭は、現在、東氏が郡上へ来たときに勧請されたという明建神社という神社がありますが、その祭礼に使われている古い獅子頭と兄弟の獅子頭とも言われておりますので、私たちも大変楽しみにしております、現在、そうした貴重な文物をお借りして展示をする用意をしております。

それから、東庄町の郷土史研究会の会長さんなどにも来ていただいて、東庄の歴史を学ぶことも考えております。

最後3つ目ですが、この東常縁を主人公としたオペレッタを制作して、それを小学生に公演をしてもらおうということで、関係の小学校の再編・統合を考えている3、4年後を目指して、今、企画を練り、これから練習をしていこうと考えております。

今年は郡上東氏800年、そして古今伝授550年という節目の年で、私たちとしても一つの重要なスタートとして、様々な行事をしていこうと、そして関係の自治体の皆様とも交流を深めていきたいと思っております。よろしく願いをいたします。

○司会 ありがとうございます。郡上東氏800年及び古今伝授550年祭でも、関連の都市のことも御紹介していただいけそうですね。今年が出発の年ということで、オペレッタなど、楽しいお話をありがとうございました。

【千葉開府900年に向けた機運醸成に係る連携】

○司会 それでは、次の議題といたしまして、「千葉開府900年に向けた機運醸成に係る連携」に入らせていただきたいと存じます。

千葉一族中興の祖、千葉常胤の父千葉常重が1126年に千葉に居を構えたことにより、千葉のまちの礎が築かれました。5年後の2026年には、開府900年を迎えます。この節目に、千葉市では、開府900年祭とあわせて第4回千葉氏サミットを開催する予定となっております。

この大きな節目に向けて、各都市間の連携を一層深め、機運を醸成していくため、現在実施している都市間の連携や今後の連携の提案などにつきまして、御発言いただきたいと存じます

それでは、まず、一関市からお伺いさせていただきます。勝部市長、どうぞよろしくお願いいたします。

○一関市（勝部） 一関の勝部でございます。前回のサミットの際に、私のほうから次の時代を担っていく子どもたちの相互交流の必要性があるんじゃないかというお話をさせていただいたところでしたが、この間、千葉市さんのほうからは、小学生・中学生向けの冊子ですね、常胤公の物語、これを作成していただき送っていただきました。大変ありがとうございました。小学校・中学校、それから図書館に配布させていただきまして、非常に喜んで子どもたちも見ているようでございます。

やはり、私は、子どもたち、特に若い世代に歴史を通じてですね、例えば、一関では、毎年「唐梅館絵巻」という、秀吉から小田原参戦に参上せよという命令があったときに、この一関を中心とする千葉氏の方々、一関の唐梅館というところに集まって、そこで軍議を開いて、そして秀吉の命に従わず、我々の正しいと思ったことをしっかりものを通すんだということで、軍議をして、そして戦ったわけでございます。

残念ながら、勢力に全然大きな差がありましたので、それも敗れてしまうわけでございますが、そういう正しいと思ったことを堂々と主張するという、そういうあたりに、この歴史の教材から、少しは子どもたちにも理解してもらえるようなアクションを起こせるのかなというふうに思っております。

ぜひ、ここのところは、やっぱり我々大人社会の責任でもあるのかなと思っております。何とか、ここらは、このサミットに参加なさっていただいている首長さん方と一緒に取り組んでいければいいかなと思っております。

それから、子どもだけでなく、大人社会のほうの連携を深めていきたいと思っております。実は、前回のサミットの後に、郡上市長さんのほうに「郡上おどり」というものがあるわけですが、あれをぜひですね、一関の「唐梅館絵巻」というので軍議

が終わった後に、地元の婦人会の方々が総踊りをするわけなんです。その場で、郡上おどりがこれに加わればという話がございましたので、今後、婦人会の方々にも練習にもう少しか拍車をかけていただきますので、残念ながら、今はコロナで2年間中止になっておりますので、次に開催するときは、郡上おどりも披露できればいいかなと思っております。それまでには猛練習をさせますので、どうぞ機会がありましたら、御指導にお出でいただければと思います。

以上でございます。

○司会 ありがとうございます。お子様たちに歴史から伝えられることは、きっとたくさんあることと思います。また、踊りや文化の交歓も楽しそうでございますね。ありがとうございます。

続きまして、酒々井町の御提案についてお伺いしたいと存じます。小坂町長に御発言いただけますでしょうか。

○酒々井町（小坂） 佐賀県の小城市の市長さんにおかれましては今回の災害地で大変心配をしております。一刻も早い復旧を心から願っているところでございます。それで、私につきましては、連携というお話をいただいたわけでございますが、その前に一言申し上げたいと思っております。それは、佐倉市と酒々井町が、千葉氏9代100年余り、下総国の首府、そしてまた、千葉氏終焉の地であります。

第2回の千葉氏サミット以降の取り組みとしましては、本佐倉城下の町立て530年記念ということで冊子をつくりました。そしてまた、今年の1月30日には、史跡本佐倉城跡案内所という、ちょっとこれは小さいんですが、こういうものを設置させていただきました。これから、さらに千葉氏について、より具体的に話を進めて、紹介していければと、こう思っております。

それから、今後の連携につきましては、次代を担う子どもたちの交流、これが一番必要かなと思っております。ウェブ会議を含めまして、酒々井学を通じた小学生、非常に勉強しておりますので、そういうことで交流ができればいいと思っています。

それから、最後に、やはり本佐倉城は国の史跡でもありまして、城山郭を中心としてですね、土の城の復元を地権者の皆様方の協力をいただきながら進めていければなど、こう思っております。町の総合計画を作っているところでございます。今後10年間という形で進めていければなど思っております。以上です。よろしくお願いいたします。

○司会 小坂町長、ありがとうございます。お子様たちの交流が実現しましたら、将

来にもつながり、すばらしいですね。ありがとうございました。

続きまして、東庄町様にお伺いしたいと存じます。岩田町長、どうぞよろしくお願いいたします。

○東庄町（岩田） 東庄の岩田です。よろしくお願いいたします。

○司会 よろしくをお願いいたします。

○東庄町（岩田） 東庄町では、様々な郷土資料書籍の発行を行っております。

千葉氏に関しましては、「まんが東氏物語」を発行いたしました。こちらは、千葉常胤の6男に当たります。源平の戦などに呼応して名をあげ、東庄町の領主となりました胤頼と、その息子重胤を中心に描いた歴史物語でございます。当時、各家庭に配布をしており、町民が東庄の歴史をよく深く知っていただくきっかけとなりました。

また、このたび発行することになりました「常緑集」でありますけれども、これは複製本であります。こちらは胤頼の始祖に当たります、つねより・じょうえんとか申し上げますが、和歌を集めたものでございます。大変な和歌の名手でありまして、郡上市さんも深く御縁がございます。掲載されている和歌を仮名表記したものは既に発行されておまして、2冊合わせて活用をされています。

そして、町内の有志団体であります東庄郷土史研究会、こちらの皆様と連携いたしまして、千葉氏ゆかりの市町村と交流を深めてまいりたいと考えています。

特に、今年は、先ほど郡上市の日置市長さんがお話しになられましたけれども、郡上東氏800年、そして古今伝授550年の年に当たります。千葉氏から名を改めた東氏が山田庄、現在の郡上市に入った縁で、東庄町として、私もこの式典に参加をさせていただく予定になっております。

東氏に伝わる妙見菩薩立像も、既にもう着いたと思いますけれども、先日送らせていただいております。郡上市の皆様と妙見様の出会いをととてもうれしく思っております。

一連の行事に関しましては、我が町の郷土史研究会会員が講師を務める講座もあると伺っております。今後もいろいろな面で、関係市町村の皆様と千葉一族ということで交流を深めてまいりたいと、このように考えているところでありますので、よろしくお願いを申し上げたいと思います。

以上でございます。

○司会 郷土史研究会などの皆様との連携というのは、とても有効で大切でございますね。ありがとうございました。

続きまして、小城市の御提案についてお伺いいたします。江里口市長、どうぞ、よろしくお伺いいたします。

○小城市（江里口） 小城市の江里口です。よろしくお願いします。

まずもって、千葉市の神谷市長の市長就任、心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。

○千葉市（神谷） どうもありがとうございます。

○小城市（江里口） あわせて、前千葉市長の熊谷前市長さんの県知事就任もあわせてお祝い申し上げたいと思います。本当におめでとうございます。

まず、小城市の千葉氏に関する取り組みをちょっと申し上げたいと思いますけれども、中世千葉氏のいろんな史跡、あるいは記録というのは、小城市は結構残っております。ですから、そういった意味でも、今現在、佐賀大学との交流特別展といいますか、交流事業で特別展を開催しております、これは毎年開催しておりますけれども、これまで千葉氏に関連する特別展というのは、3回ぐらい、いろいろ開いているわけなんです。そして、その特別展を開いた後に、いろいろ図録を含めた資料を作成しております。

ちょっと紹介しますと、例えば、これは千葉氏のお城という城に関する資料ですね。それから、もう一つは、千葉氏が展開してもらっておりました小城の祇園祭、お祭りのこういうような資料、こういったものをつくっております。それから、また、これは中世小城の歴史と文化と自然・千葉氏という形での資料なんですけれども、こういったものも資料をつくって後世に残したいというふうに思っております。

それと、もう一つ、先ほどパネルディスカッションで話がありましたように、千葉宗胤公というのが九州千葉の祖と言われておりますけれども、その方が小城に来られて、まちづくり、園づくりをやっていただきました。そして、その子どもである胤貞公、この方が先ほど言ったお城を造ったり、お祭りを広めたり、それから妙見社を広げたり、いろいろやっていただいたんですけれども、その胤貞公が、実は今日お見えの多古町の北庄のお殿様でもあったということで、その縁で多古町の所町長さんにも大変お世話になったり、実際、私もお伺いをしたことがあるわけなんですけれども、そういう多古町さんとか、それから、もう一つ、千葉氏顕彰会というのがそちらにあるかと思っておりますけれども、そういった方々にも小城のほうに来ていただいて、本当に交流をやって御縁をいただいております。本当に感謝申し上げたいと思います。

それで、今度、開府900年を前に今後の取り組みということなんですけれども、これだけの千葉氏に関する皆さんたちがいらっしゃいます。ですから、そういうそれぞれの千葉氏に関する事で、講演会等々を巡回で回っていったらなという思いがしております。

それと、前回提案しておりました千葉氏子どもサミットですね。これも、今回11月に開催される予定と聞いておりますので、これは私も本当に楽しみにしておきたいというふうに思っております。

それと、もう1点ですけれども、実は、我々、地方において非常に興味があるのは、自分たちの要するに名前の姓ですね、姓のルーツというのは非常に興味があります。そして、そういった中で、実は先ほど、小城の場合は北庄が一つのルーツだと言われておりますけれども、その一つの地名として、中村郷とか、それから金原郷とか原郷、円城寺郷、いろいろ地名があるというふうに聞いておりますが。実は、その姓が小城にはたくさんあるんですね。円城寺さんとか、原さんとか、金原さんとか、中村さんとか飯坂さんとかあるんですけれども、そういう我々地方の人間にとっては、自分たちがどこから来たのかという、そういうルーツをこの千葉氏の中で探し出せたらなというふうに思っています。

市長の私も江里口といいますけれども、江里口という姓は小城にしかありません。ですから、ひょっとすると、これも千葉氏か、また、どこからか来ているのかなという、そういうふうなロマンを私も求めていきたいというふうに思っておりますので、そういうふうな姓のルーツが求められるような企画が小城市のほうでもできたらなというふうに思っております。

以上でございます。よろしくお願いします。

○司会 ありがとうございます。私も江里口様という名字は、初めてお目にかかりました。姓のルーツ、また、講演の巡回、興味深いお話をありがとうございました。

それでは、続きまして、千葉市の連携事業につきまして、神谷市長に御発言いただきたいと存じます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

○千葉市（神谷） 千葉市の神谷です。様々な御意見、ありがとうございました。いずれも大変意義深いもので、どのように進めていくのか、これから具体的に考えていかなければいけないかなと思っているんですけれども、今日は、こうした機会を得られたのも、まさに、千葉氏一族が歴史の中で人を育てて、また、時を超えて人から人への

つながりをつくって、まちづくりを地域で積み重ねてこられた、そのおかげだというふうに思っております。

その千葉一族のすばらしさというのは、こういったネットワークそのものにあるんじゃないかなというふうに思っております、このネットワークを礎にして、次の時代につながる次世代の交流をぜひ続けていきたいと思ひますし、大事にしていかなければいけないんじゃないかなというふうに思ひます。

前回のサミットで、小城市の江里口市長様から御提案いただひている「子どもサミット」ですけれども、11月に開催をいたします。

千葉市のほか、小城市、郡上市、多古町の皆様に御参加をいただきまして、学習を進めておりますけれども、11月1日にオンラインで開催をしまして、各まちの学校から取り組みの発表をしていただくことにしています。

千葉市から今日お配りしている資料なんですけれども、各学校での学習風景を撮影したものでありまして、本市の院内小学校の6年生が市内の施設めぐりなどを通じまして、千葉氏の歴史を学習しているものであります。

ここの院内小は、千葉氏の守護を祭る千葉神社、この会場の近くなんですけれども、そこに非常に近い小学校でありまして、校章に千葉氏の九曜星の紋様が使われております。校歌の歌詞にも九曜星の記述がござひまして、千葉氏にゆかりのある小学校です。

今年度の課題をぜひ検討させていただひて、発展的に参加都市をふやして、開府900年に向けて、首長さんたちと同時期に子どもサミットを拡大する形で、成熟した形で開催を目指したいと思ひています。

また、子どもたちによる交流ですとか、出前講座も、今、オンライン・オフライン、様々な手法があると思ひますけれども、そういった具体化もしていきたいというふうに思ひています。

また、各市役所の若手職員ですね、その取り組みとして若手職員さん同士の意見交換ですとか、それぞれの地域の活性化などをテーマに協議をしてみたりですとか、ゆくゆくは、若手職員の人材交流・イベントにもつながっていくといいんじゃないかなというふうに思ひています。

今日は、それぞれのまちの皆様から取り組みを教えてくださいましたが、令和2年の3月に「千葉氏ポータルサイト」というのを開設してひまして、ゆかりの都市ですとか伝統行事を紹介してひます。それぞれのまちで、鎌倉時代のものが残ってひたり

ですとか、文書が残っていたりですとか、様々な研究があると思いますので、そうしたものを一覧として見られるように、そのポータルサイト自体をプラットフォームになるような形で運営していくことができればなというふうに思っております。

なかなか、今は各まちを訪問するのは難しいですので、そういうウェブの中でオンラインツアーをすることで、各まちへの思いを強くすると、こういうような企画もぜひやってみてはどうかなというふうに思いますので、以上、御提案をさせていただきます。

ありがとうございました。

○司会 ありがとうございました。子どもサミットも楽しみでございます。神谷市長、ありがとうございました。

【意見交換】

○司会 各都市の皆様から、様々な事業について御発言いただきまして、まことにありがとうございました。

それでは、議題(1)、議題(2)につきまして、10分ほど意見交換の時間を持ちたいと思います。御発言ございましたら、どうぞ挙手をお願いいたします。なお、お時間の都合で御希望の皆様には御発言いただけない場合がございますので、あらかじめ御了承のほど、お願いいたします。

では、議題についての御意見、また、御意見をお聞きになって何か改めてございましたら、よろしくをお願いいたします。

では、郡上市の日置市長、よろしくお願いいたします。

○郡上市（日置） 郡上市長ですが、先ほど、一関市長さんから、唐梅館の行事に際して、ぜひ、ゆかりのある郡上おどりを紹介してほしい、あるいは、一関の皆さんが郡上おどりをマスターして、そうしたゆかりの地の踊りを紹介したいということをおっしゃっていただきました。

また、かねてから、東庄の岩田町長さんからもそういうお話をお伺いしておりますけれども、ぜひ皆さんに、実は郡上おどりは、去年も今年も通常の形では開催できておりませんけれども、郡上踊り保存会の皆さんが、歌やおはやしや踊りを、もう何回もないかもしれませんが、オンラインで披露しておりますし、また、コロナが収まれば、ぜひ郡上へ来ていただいて、交流もさせていただければと思っております。

この前も、お話をお伺いしたとき、郡上もちょうど夏の時期で、盆踊りの最盛期でし

た。その開催時期によっては、こちらから行くことがひょっとすると困難なこともあるかもしれませんが、いろんな人がこちらからも行き、あるいは、それぞれのところからお出でいただいて、交流ができれば大変うれしいと思っております。

○司会 ありがとうございます。私ども、自分の土地の踊りはよく目にいたしますが、ほかのよその土地の踊りなどを見るという機会はなかなかございませんので、実現したら楽しいかなと思います。ありがとうございます。

もう少しお時間がございますが、あとお一方ぐらいでしょうか。御意見または加えて一言ございましたら、お願いいたします。お子様たちの交流に関してはいかがでしょうか。何人かの皆様から出ていたと思いますが。

・・・よろしゅうございますでしょうか。東庄町の岩田町長でしょうか。よろしくお願ひいたします。

○東庄町（岩田） 私も郡上へ行きまして、郡上おどりを市長さんの後ろについて一生懸命踊ってまいりました。市長さんは大変上手な方ですから、もう名取りでありますので、その辺もいろいろな場面で教わればいいんじゃないのかなと。ちなみに、立派な踊りをするとこれがもらえる。

○司会 立派でございます。

○東庄町（岩田） ええ。免許皆伝ということですね。また、どうぞ行ってあげていただければと。以上です。

○司会 そのような楽しい交流から、また地域の関係が広がっていけばいいなと思いますね。ありがとうございました。皆様、御発言ありがとうございました。

それでは、議題以外の内容につきましても、御発言がございましたらお伺いしたいと存じます。いかがでしょうか。神谷市長、お願いいたします。

○千葉市（神谷） 議題以外ということで、2点、提案と御紹介をさせていただきたいと思います。

来年のNHKの大河ドラマなんですけれども、「鎌倉殿の13人」ということになってまして、残念ながら千葉常胤は13人の家臣にはドラマの中では入っていないんですけれども、鎌倉幕府の有力御家人として千葉常胤は出演しますので、そういった観点からも、千葉氏のPRを重ねていきたいなというふうに思っています。

私たちのまち、千葉市では、この大河ドラマ出演を祝しまして、パネル展「千葉常胤と鎌倉殿の13人 南関東編」ということで、パネル展の開催を予定しておりますので、ま

た、サイトなどで御紹介をしていきたいというふうに思っていますし、常胤役は俳優の岡本信人さんが演じることになっておりまして、安定感のある大物俳優の岡本さんの活躍にぜひ期待しているところでございます。

それと、提案になるんですけれども、災害時の支援と連携をさらに深めてはどうかというふうに思っております。

先週の集中豪雨では、各地に被害が出ておりまして、被害に遭われた皆様、また、小城市の江里口市長には、災害復旧・災害対応ということで本当に御尽力いただいたのかと思います。心よりお見舞いを申し上げる次第であります。

私も以前、仕事の関係で佐賀に住んでいたことがございまして、特に豪雨の大変さというのは身にしみてわかっているつもりでありますので、特に災害時について、今回、御提案もさせていただけないかなと思っています。

令和元年9月、台風15号の被害が私たちの千葉市にもありまして、本当に大きな規模の停電ですとか、屋根の破損が起きてしまいました。その際、南相馬市の皆様方からブルーシートの御支援をいただきまして、心から改めてお礼を申し上げたいと思います。

近年、気候変動の影響により、自然災害とともに震度5以上の地震も頻繁に起きている状況です。国内各地に広がるゆかりの都市の皆様と防災面で連携・支え合いというのは、非常に有効なものだというふうに考えておりまして、ぜひ協議を進めていければなというように思っております。

以上、提案をさせていただきました。皆さん方からも御賛同いただければというふうに思います。よろしくお願いいたします。

○司会 神谷市長ありがとうございました。

それでは、多古の所町長、よろしくお願いいたします。

○多古町（所） 今、神谷市長さんから災害時の連携について御提案がございました。

まさにお話がございましたが、一昨年、台風15号ですね、9月9日でありますが、千葉市も大変な被害であったと思いますが、我が多古町でも甚大な被害が及びまして、その折に、電気が2週間にわたってとまりました。その影響で水道もとまりまして、携帯電話もつながらないというような状況が続いたわけではありますが、その折に、当時、千葉市からわざわざ職員の方の派遣をいただきまして、たくさんの飲料水を届けていただきました。

また、小城市からも救援の申し出をいただきまして、本当にありがたく、力強く思っ

たところでございます。それも、この千葉氏サミット、千葉氏の関連で御縁があつてのことであつたと思っております。

神谷市長からもお話がございましたが、この千葉氏に関連した自治体は東北から九州まで点在しておりまして、900年の時を経て、これを機に、できれば親戚のようなつき合いをさせていただければ、それぞれの住民の皆さんにとっても心強いのかなと、そのように思っておりますので、まずは災害時の連携協定ですが、ぜひ進めていただきたいと、そのように思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

○司会 所町長、ありがとうございました。一部、画面が乱れまして申し訳ございません。おわび申し上げます。

それでは、小城市の江里口市長、よろしくお願いいたします。

○小城市（江里口） 小城市の江里口市長です。先ほど、多古待ちの所町長がお話しされたことと全く私も同感で、申し上げたいと思います。

小城市の場合も、先週の11日から、ずっと長雨と線状降水帯で大きな被害が佐賀県一帯に出ております。これはちょうど2年前の令和元年8月豪雨の再現となるような豪雨でした。その際におきまして、千葉市や、それから2年前は多古町の所町長や本当に多くの皆さんたちから激励やお見舞いをいただきました。

我々、千葉氏として連携しながら、場所はこう広く離れていますけれども、何か連携しながら力になればという思いでいっぱいでございます。

今回のような豪雨というのは、この地球温暖化の中で、本当にいつでも起こり得るという、そういう思いをやっぱり持たなくてはならないというふうに思っていますので、そういった意味でも、この千葉氏関連で連携をしながら、先ほど所町長さんが言われたように、もう親戚だというふうな感じでですね、お互い協力し合い、力を合わせられたらいいかというふうに思っていますので、ぜひ、先ほど千葉市の神谷市長が言われたような連携等々がとればいうふうに思っていますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

○司会 ありがとうございます。ほんとに心からお見舞いを申し上げます。頑張って切り抜けていただきたいと存じます。ありがとうございました。

それでは、お時間も迫ってまいりましたので、まことに残念ではございますが、意見交換は終了とさせていただきます。

【総括】

○司会 最後に、開催市であります神谷市長より、本日の総括をいただけますでしょうか。

○千葉市（神谷） 僭越ですけれども、今日のまとめ的なことをさせていただきたいと思います。

皆様、今日は、大変貴重な御意見・御指摘をいただき、ありがとうございました。皆様方からいただいた御意見ですとか、意見交換の内容を踏まえまして、2点ほど、まとめをさせていただきたいと思います。

一つ目が各地域の活性化、あと千葉開府900年に向けまして、このコロナ禍のニューノーマルにも対応した観光での交流や若者・子どもなどの次世代の交流を推進していきたいと思っています。

もちろん、オンライン・オフライン、様々な手法がありますので、可能性のある手法を幅広く検討して皆様御納得の上で進めていく、そんな進め方をできればなというふうに思っています。

もう一つ、先ほど御意見をいただきましたけれども、災害への対応が必要だというふうに思っています。

今、気候変動に伴いまして災害の中身も大きく変わっていますし、回数も規模もふえています。災害時の具体的な連携について、この900年の時を超えたネットワークを最大限に生かさせていただいて、協議を進めさせていきたいなと思っております。

この2点について確認させていただいたということで、いかがかというまとめをさせていただきますが、どうでしょうか。

ありがとうございます。御賛同いただいたということで、受けとめさせていただきたいと思います。

開催市の千葉市といたしましては、2026年に迎える千葉開府900年に向けまして、千葉一族の認知度向上、そして一層の連携強化を図るとともに、その先の将来・未来も見ながら、今日お集まりの各都市の皆様との交流を深めていきたいというふうに考えています。2026年は、第4回の千葉氏サミットを開催する予定でございます。千葉氏発生のこの地に、改めてゆかりの都市の皆様方をお迎えして、多くの方々とその歴史的な節目を共有してまいりたいと思っておりますし、その第4回の千葉氏サミットを迎えるまでの数年間の取り組みをぜひ形にして、そのサミットで振りかえる。そしてさらに活動を

深めていく、そんな場にしていきたいと思いますので、各都市の皆様方の御理解と御協力をぜひお願いしたいというふうに思っております。

本日は、本当にたくさんの御意見をいただきまして、ありがとうございました。今後とも、このネットワークを深めていきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○司会 神谷市長ありがとうございました。そして、皆様、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、第3回千葉氏サミット首長フォーラムを終了とさせていただきます。

本日は、長時間にわたり御視聴いただきまして、まことにありがとうございました。

また、御参加いただきました皆様方におかれましては、大変お忙しい中、御協力いただきまして本当にありがとうございました。

今回のフォーラムの様子は、後日ごらんのページにアップをさせていただきます。ホームページとあわせてごらんください。ありがとうございました。